

留学先大学：上海交通大学  
 留学先での所属学部・研究科：国際公共事務学院  
 留学先での在籍身分：交換生  
 留学期間：2014年9月～2015年9月  
 神戸大学での所属学部・研究科：法学部法律学科  
 学年（出発時）：5年（4年）  
 本報告書記入日：2014年12月3日

## 出発前

どのように情報を集めましたか。参考になる本やホームページがあれば、記入してください。

・中国留学サクセスブック - イカロス出版オンライン書店  
 その他、HP複数。  
 ただし、上海交通大学のHPは更新されていないので、履修する授業についての情報は集められない。

## 住居について

- ・住居のタイプ：大学寮 アパート ホストファミリー その他（具体的に）\_\_\_\_\_
- 住居（寮、アパート）の名前：桃李苑
- ・部屋の種類：一人部屋 二人部屋 その他（具体的に）\_\_\_\_\_
- ・ルームメイト：現地学生 留学生（出身国：\_\_\_\_\_） その他（具体的に）\_\_\_\_\_
- ・どのように探しましたか。：大学の斡旋 自分で探した その他（具体的に）\_\_\_\_\_
- ・大学までの通学時間・手段：\_\_\_\_\_分、大学内（Xuhuiキャンパス）にあるので
- ・住居の周りの環境はどうか。：

5分歩けば、大学内の食堂・売店・コンビニに行ける。またキャンパス外に出れば、現地のスーパー・レストラン・屋台が並んでいるので、生活はキャンパス圏内で十分快適に過ごせる。また、Xuhuiキャンパスは上海市中心部あり、かつ地下鉄の最寄り駅までも徒歩10分で行ける。

- ・毎日の食事はどうしていますか。：

基本的に、朝と昼はキャンパス内の食堂で食べている（かなり安い）。ただ、キャンパス外にふらっと出て屋台で軽食を調達することも多い。  
 ただ夜は、キャンパス外のレストランで食べている。（レストランで贅沢に食べても20元程度）

- ・住居は渡航前に、または渡航後すぐにみつけられましたか。トラブルはありませんでしたか。：

もともと1人部屋で申し込んでいたが、着いてみると2人部屋に割り当てられていた。（結果的には2人部屋でよかったと思っているのですが・・・）かつ、渡航直前に受け取ったメールには、他の寮に入居する旨が記載されていたのに、入居手続きの際に別の寮に入居するように指示された。オリエンテーション時に寮費を支払ったのにも関わらず、入居後3カ月たって「寮費の支払いが未だだ」と言われた。これについては日本の両親からVisaカードの明細コピーを送ってもらい支払いを証明することで、問題は解決した。このように、中国の大学の事務手続きは非常に雑で当てにできない。同じ部署でも個人により言うことが違い、翻弄される。昨日までのルールが今日通用しないと言われることも多い。忍耐力と諦めも肝心かと。

## 大学の授業について

### 1. 履修登録について

- ・履修登録の時期：出発前 到着後
- ・履修登録の方法：On-line International Office等の仲介 その他（具体的に）\_\_\_\_\_ 所属学部の担当職員にメールで提出。
- ・登録時に留学生として優先・配慮されることはありましたか。：無し 有り
- ・優先・配慮があった場合、具体的に教えてください。

- ・希望通りの授業が履修できましたか。：はい いいえ
- ・希望通りの授業が履修できなかった場合、その理由を教えてください。

2. 現在までに、履修している授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも 含めて教えてください。
1	China's Intercultural Communication, 3	LU Yungpin	3.5h	不明	30	SIPAのInternational Master Degree Programの開講科目の1つ。英語による授業。テストは無い。レポートの提出が多い。またグループによる課題がある。ただ、内容はとても簡単。
2	Energy, Climate Change and Sustainable Development in China	ZHANG Junhua	3.5h	不明	20	SIPAのInternational Master Degree Programの開講科目の1つ。英語による授業。毎回事前に割り当てられた論文を読んでから授業に出席することが求められる。課題は、学期にひとり一回のプレゼンとファイナルペーパーの提出。テストはない。
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

3. 授業（カリキュラム等）について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

- ・上記2つの授業共に、SIPAのInternational Master Degree Programの開講科目であるため現地学生の履修は少ない（少ないがいる）。むしろ、他国からの交換留学生や、IMPに所属する留学生（院生）が殆ど。
- ・クラスは教授が一人一人を認識するには十分なくらい小さい。
- ・成績評価については、課題さえ（形式的であれ）こなしていれば、単位は貰えるのではと感じる。
- ・教授は中国人であり第二外国語として英語を使い授業を展開するため、教授の英語力不足を感じて苛立つこともある。
- ・神戸大学の教授には体系だった知識を教えようという意識を感じたが、こちらの教授にはそのような意識や熱意がない。適当に教えている。
- ・またアメリカに比べて、学生と教授の関係が「フェア」でない。教授は偉そうにしているが、授業は分りにくいし、課題や授業時間の変更など事務連絡も手抜き。
- ・学生も英語を母語としない留学生が多いが、留学生の英語力はとても高い！！（彼らの英語力は教授以上であると感じる。）

一週間のスケジュール（授業時間、課外活動等、毎日の生活を記入してください。）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
9:00		中国語ク					
10:00	図書館で	ラス	図書館で	洗濯・掃	図書館で	内定先から	基本的に 土曜と同じ
11:00	自習	↓	自習	除	自習	の課題	
12:00		↓	↓		↓		
13:00	昼食	昼食	↓	図書館で	↓		
14:00		図書館で	↓	自習	↓	・図書館	
15:00	本科の授	自習	↓	↓	日本語を	で自習する	
16:00	業	↓	本科の授	↓	友達に教	・友達と	
17:00	↓	↓	業	↓	える	カフェで	
18:00	↓	↓	↓			まったり	
19:00	↓	↓	↓		課外活動	・ときには	
20:00	クラス	↓	クラス		など	は上海市	
21:00	メートと	運動	メートと	運動		内へ	
22:00	夕飯		夕飯				言語交換 ↓ ↓ ↓

## 現在までの感想 自由に記入してください。（800字〜）

桃李苑という新築の寮に割り当てられたため生活環境はとても快適です。さらに、これまで中国では中国人学生と留学生が同じ寮に住むことはタブーとされてきましたが、桃李苑には中国人学生も入居しています。（桃李苑に住む中国人学生は国際交流を促進する特別なプログラムに参加しており、入居にあたっては選抜があったそうです。）特に、桃李苑は日本に留学経験のある香港実業家の寄付で建設されたこともあり、日本人交換留学生は優先的に中国人学生とのルームシェアを割り当てられるようです。（桃李苑に住む中国人学生は30人程度、留学生は200人程度。）私も中国人学生と1つの狭い部屋（そこに風呂場や洗面所が付いている）を共有しています。

当初は、部屋に帰っても「他人がいる」「一人になれない」「プライバシーがゼロ」であることにかかなりのストレスを感じました。しかしながら、寮生活を続けるにつれ、中国では1部屋に2人どころではなく3人〜8人の学生が住むことが普通であることを知り、また、中国文化特有の「人との距離の近さ」に触れるなかで、「中国人と日本人のパブリック/プライベートに対する概念の違い」を理解しました。

日本では、「他人から見た自分自身の姿」に常に注意を払わなければならない、その「外からの自分を意識しなくてもいい」という意味でのプライベートの時間を大切にする文化があると気付きました。言い換えれば、そのようなプライベートの時間を確保しないと気疲れするぐらい他人から見える自身の姿を、日本人は意識しているのだと思います。

反対に中国人は、むしろ「他人からの視線」を全く意識していないように感じます。このことに気づいてやっと、道で鼻くそを穿りながらお腹を出して歩くオジサン「素直さ」と可愛げに心打たれ、買い物をしてもしもニコリともせず物投げつけてくる店員さんの「人情味」にほっこりとするようになりました。（渡航後1カ月半たったところにそれを理解するまで、そのような中国人の行動心理が不明で「中国人は洗練されていない野蛮な国だ」と思うくらい中国が嫌いになっていました・・・。）彼らにとって、道ゆく人や買い物する客は「他人」であり、外からの目を意識しなければならない存在でないだけだと思います。

その一方で中国人は、時間を共有する人間（家族や学友）を「身内」としてとても大切にしています。「同じ時間を共有すれば苦楽を共にする仲間」という考え方が根底にあるようです。中国語の「朋友」は一般的に日本語で「友達」と訳される語ですが、私は現地学生との交流のなかで「朋友」が「友達」以上にもつ意味の奥深さに気付き、中国人の人情味や懐の深さに感動しています。彼らと仲良くなりたいという想いがモチベーションになって、中国語を上達させるため勉強を頑張っています！

12月は南京大虐殺記念日もあり、新聞・テレビ・Wechat（中国のLINE）さらには大学のHPまで、毎日南京大虐殺や旧日本軍についての特集をしています。交通大学の学生であれ、中国人の殆ど全てが日本政府の歴史に対する向き合い方に強い不信感を感じているのは確かだと感じます。それでも、日本政府への不信感をもって（私を含め）日本人に対して直接非難をする中国人は交通大学には決していません。しかしながら、大学に通っていない一般市民に街で出会えば、確かに日本政府の歴史への態度を理由に嫌日感情を直接表現されることもあります。（中国は大きい国であり、中国に生きる人間の生活や人生には本当に多様性があります。）そのような嫌日感情に触れるたびに悲しく、正直私のなかの嫌日感情さえ湧いてきそうになります。そんなとき私は、交通大学の「朋友」たちを思い出すようにしています。確かに中国で不快な思いをすることもありますが、その中国こそ彼らの育ってきた国であり彼らの祖国なのだとせば、中国を嫌いになることはありません。

一番の「朋友」とは、尖閣諸島問題、安倍首相の靖国神社参拝の是非、南京大虐殺への日本政府の見解、中国共産党の外交政策、中国海軍と自衛隊の増強状況など複雑な問題について話し合う仲になれました。全て二人の見解が一致することはありませんが、「僕らの意見の違いは受けてきた教育の違いから生まれるだけ。そして僕は中国が好きで、君は日本が好きだけ。」と言い、「これからも話し合おうね！」と爽やかに言ってくれます。また、言語交換をしている「朋友」は、「日本人と中国人は互いに理解を深める必要があるから、お互い言語を勉強するのは大切なこと！」とニコニコしています。冒頭で書いた桃李苑はもともと、日本政府と中国政府によって展開された、日中青年が共同生活を通じて相互理解をはかることで両国の平和発展に貢献する人物を創出するプロジェクトの一環だそうです。（同プロジェクトは交通大学他、清華大や北京大など国家重点大学で展開されています。）日本が尖閣諸島国有化した2012年には中国国内の嫌日感情は相当なものであったようですが、同プロジェクトが政府間でストップすることは決してなかったと聞き、確かに日中友好のため努力する人たちがいることを実感しました。日本と中国には互いに複雑な感情を抱く国民が多いのは間違いないことですが、私自身は中国文化や中国人の考え方を知ろうとする好奇心を生涯持ち続け、少しでも多くの中国人に「君が理由で日本の印象が変わった」と言わせるような謙虚で素敵で素敵な女性になっていきたいと思っています。